

第4回宮城県広域防災拠点整備検討会議 議事録

日 時：平成25年10月9日（水）14:00～16:00

場 所：宮城県庁11階 第2会議室

出席者：委 員：佐藤健委員長、牛尾陽子委員、小坂健委員、沼倉勝則委員、宮嶋浩一委員（代理：井口司様）

事務局：宮城県 後藤震災復興・企画部理事兼次長、千葉震災復興・企画部震災復興政策課長、山内総務部危機対策課長、榎土木部都市計画課副参事兼技術補佐、武者震災復興・企画部副参事兼震災復興政策課長補佐
ランドブレイン（株）岩田技術部長、六本木担当部長

■議事

（1）導入機能の規模と配置について

委員長：・時間も限られているので、規模、配置についてどの部分からでも御意見をいただければ。

小坂委員：・今回の計画地における人とモノの流れを考えたときの配置に関する考え方としては資料にあるようなものが考えられるのだろうと思うが、例えば三重県ではヘリコプターは30分、40kmを目安として4か所を設定しており、宮城県では1か所といったときに、どこまで賄うかという議論が十分でない感じがする。

・また、活動量に関して、東日本大震災の最大値を参考にすることは、他に方法がないという意味で問題はないと思うが、地域の防災拠点や広域の防災拠点のサブができた時には分散できるという話になる。Kスタとか仙台市陸上競技場に緊急的に人とモノ、ヘリコプターが来るようなことはないのかとかを含めて、1か所ですべてを賄うという考え方でなくとも良いと思う。

・ヘリポートはある程度固定されるだろうが、他のスペースはフレキシブルに使えるのではないかと思うがどうか。

事務局：・実際には状況にあわせて運用することになると思われる。

小坂委員：・地下の倉庫は内水の問題があるので計画はしないということか。

事務局：・そうである。

小坂委員：・野外スペースが基本になっているが、物資の置き場や避難場所になる体育館などの、屋内施設は必要ないか。

事務局：・基本的に大規模な屋内施設は想定していない。

小坂委員：・県が用意する拠点を1か所にするのかどうかということについて、検討が必要である。

- ・愛知県、岩手県では広域防災拠点の配置について分散・集中の検討をして、分散型が良いのではないかという結論になっている。宮城県では1か所だけを報告書に入れることに関して説明等が必要。最後に連携する施設候補をあげられているが、そこをもう少し検討してほしい。
- ・東京、大阪の基幹的防災拠点は津波に弱いだろうという中で、愛知県はそれを補完すると言っている。宮城の広域防災拠点でも東京が被災した時には、空港、港、高速道路のパーキングエリアなどに物資を確保しておき、応援するといった構想にすれば、希望の持てるものになるのではないか。

事務局：・基本的に分散型は想定していないが、他の拠点との連携について触れており、今後どのようなことができるかを検討していきたいので、よろしくお願ひしたい。

沼倉委員：・小坂委員の話に関連して、次回が検討会議の最終回になるので、作成する報告書では、宮城県全体として地域防災をどうするかという視点を持ち、地域のをどう活用するかを加えられたらよいと思う。それによって、宮城野原の防災拠点の役割も明確になると思うので、御配慮いただければよいのではないか。

事務局：・中間報告にも載せているが、市町村と意見交換を行いながらという段階であり、最終報告に間に合うかわからないが努力したい。

牛尾委員：・小坂委員と同じような意見で、宮城県に応援のあった都道府県をみると、宮城県は東京まで4時間で行けるところにあることから、東京で直下型の地震があった時には宮城県には最低限出動準備のかかることが想定できるので、そういったのりしろの部分を考えることが必要と思う。

- ・屋内、屋外の話に関係して、中間報告の時に、球場をドーム化したら非常時にも使用できるのではないかという意見を出したが、費用が掛かりすぎると言われた。

事務局：・屋内型の施設の位置づけは重要であると思うが、費用の問題のほか、現在のKスタの扱いを含めて相当難解なパズルになるため、具体的なイメージを持って書き込むことは難しいのが実情。

- ・例えば、仙台市陸上競技場の屋内部分を活用するようなことは考えられるが、施設として整備することについては、今後、防災拠点の整備を具体化させていくなかで考えるものとして、今回の報告書では検討課題とさせていただければと思う。

牛尾委員：・野営場がヘリポートの近くにあるのはどうかと思う。

事務局：・ヘリコプターは、夜間は運行しないので、容認していただける範囲と考えた。

委員長：・他の事例で野営場とヘリポートの関係はどうか。

- 事務局：・他の地区では既設の公園を使っているケースが多く、隣接させなければ確保できないわけではない例が多い。
- 沼倉委員：・宮城野原地区のヘリポートは、立地条件を考えると夜間の離発着はしないということで良いかと思う。
- ・ボリューム設定について、東日本大震災では3県同時に被災しているので、宮城県に入ったヘリコプターの駐機設定で十分なのかについて自信はないが、現在の駐機設定で良いと思う。
- ・一時集結場所と野営場は、面積設定は別で構わないが、機能的には一緒なので同じゾーンにするのがよい。ただし、消防、警察、DMATが入るとすると、職域によるエリア設定は配慮した方がよい。
- ・宮城野原地区は市街地内にあり、常設の飛行場は設置できないと思うので1/8勾配の常設の飛行場は考えなくても良い。ただし、進入離脱表面の設定については、風向きも重要なので風向を考慮した検討をして欲しい。
- 宮寄委員：・基本的に自己完結する防災拠点をつくっていく方向で検討するのであれば、Kスタや仙台陸上競技場も運用して総合的に機能させるとよいと思う。
- (代理・井口様)
- ・ヘリポートが野営場に近いことについては、安全面も含めて現実的に厳しいのではないかと思う。
- ・過去に県職員等が活動する際に給油に支障をきたした教訓を踏まえて、給油する場など、県として保持しなければならない機能で周辺にもないものを盛り込んでいった方が、県としても使い勝手がよく、柔軟性のある施設になるのではないか。
- 委員長：・医療センターの跡地については、今回の整備の中でどれだけ連携を持たせられるか。
- 事務局：・現仙台貨物ターミナル駅の土地への計画しているものとJR貨物駅の計画と直接的には関係しないが、全体として必要な機能について御意見をいただくことはできる。
- ・現時点では、新仙台医療センターが建設される場所にある、総合運動公園の機能を置き換える方向で考えているが、防災拠点として一体として使う場合には、総合運動場が仙台市の広域避難場所に位置づけられていることを含めて検討していく必要がある。
- 小坂委員：・燃料の備蓄はしないのか。
- 事務局：・危険物であり、保管する場合には常時、管理しなければならないという問題など、平常時の利用に影響もあるため考えていない。
- 小坂委員：・街中だからということであれば、県内の他の場所で確保する必要が生じるのではないか。何となく、空き地があるから作りましたという印象で

全体の哲学が感じられない。本当に使えるものがつくられるのか、不安な感じがする。

- ・他県ではいろいろな要素から必要な場所を選定して、条件を満たす場所を設定しているが、今回の場合は宮城野原地区ありきになっており、全体の防災計画のなかで宮城野原地区は何をするのかが見えなくなっている感じがする。
- ・しっかりした青写真を描かないと県民の同意は得られないのではないかと。宮城野原地区に置くことの理由付けがないと難しいのではないかと思う。

委員長：・平常時利用として、北海道千歳市に「防災の森」という、野営生活訓練を含めた屋外体験型の教育・訓練活動をしている例が参考になる。
・屋内型の展示や教育機能の検討も継続してほしいが、報告には屋外での活動について、アイデアや提案を盛り込んでいただけるとありがたい。

沼倉委員：・ヘリポートの関係で SCU を位置づけていることについて、SCU は基本的に固定翼の飛行場とすべきであり、7 機しか駐機できない、いわばフォワードベースに SCU を位置づけている都道府県はないと思うので、もう少し考えられるとよい。

事務局：・小坂委員の話とも通じるが、宮城野原地区だけが宮城県における SCU 機能を担うという誤解が生じるのは良くないので、検討する。

沼倉委員：・霞目を SCU に位置づけているとしたら、それを補完するものとするのがよいと思う。

(2) 土地利用計画、整備イメージについて

小坂委員：・道の配置を考える時には、物資や緊急車両の動線と医療センターの動線とは変えておくのが良いと思う。

- ・動線の検討をすると、どの案が良いのかははっきりしてくるのではないかと。

委員長：・新しい医療センターとの動線の関係を考えるということか。

小坂委員：・大学病院の出入り口が一か所で大渋滞を起こしているので、利用の多そうな路線を考えて検討するなどしたらよい。

沼倉委員：・野営した隊は、朝は緊急出動するように出ていくことになるので、動線の処理をしっかりしないといけないと思う。

事務局：・出動後のことを言われているか。

沼倉委員：・非常時のルート分けをしっかりするという事。

- ・例えば、野営と荷捌きが同じルートになっているが、何に使うか、どういう人あるいは車両が利用するのか、どのような行動をするのか、平常時と非常時では全く違うと思うので、その色付けをしっかりしないといけないと感じた。

- ・また、一時集結したり野営したり、ヘリポートに離発着して患者さんを運ぶなどいろいろな活動をするには指揮統制、現地調整が必要で、広域防災拠点には連絡調整するための統制の機能を担うとされているので、その動線処理をどのように絡めて整理するかを工夫されるのがよい。
- ・ヘリポートについては、駐機スペースにはエアタキシングで移動することになるが、草地の場合、舞い上がる埃などを苦手にするヘリもあるし、チヌークなど重量のあるヘリではスキッドが地面にめり込んでしまうので、駐機場所の地面の構成も考える必要がある。

委員 長 : ・平常時のことを考えると、パターンBの一体型の空間計画が日常的な利用度は高まると思うが、災害時にゲストクリア後に一般の人が入らないようにするための方法としてどのようなことが考えられるか。

事 務 局 : ・避難地としての機能を維持しながら対応するには、そのゾーンを決めて管理するのが、できそうな方法と考えられる。

委員 長 : ・道路を付け替えることの実現性はどうか。

事 務 局 : ・構想レベルで考えているため鍵型の道路で描いているが、道路の性格で線形は変わってくる。

牛尾委員 : ・防災拠点内の道路車線数はどうか。

事 務 局 : ・防災拠点内の道路は2車線である。
 ・八軒小路北宮城野線の現況は2車線。将来、他の道路と接続した時には4車線も確保できる幅員がある。

牛尾委員 : ・パターンBは防災センターと集結場所が両端にあり、各機能を考えるとあり得ない配置と思う。

事 務 局 : ・各機能に必要なボリュームが決まることから、ある意味でパズルを組み立てるような作業になる。
 ・それぞれの案について課題を指摘いただき、次につなげることを考えながら作成したものである。

沼倉委員 : ・ヘリポートに遠隔地から患者さんが運ばれてきて、仙台医療センターに收容する場合、どのようにアクセスさせるか。医療センターにもヘリポートが確保されると思われる中で、ここと医療センターとの関連がわからない。

- ・仙台医療センターの活用が謳われているが、報告書ではその臭いがしない。動線なりアクセスを絡めて、医療センターの機能を活用してくといった視点もあるとよい。

事 務 局 : ・各地の防災拠点も多様な機関、組織が使うことになるので、必ずしもオペレーションまでしっかり検討されて計画されていないのが実態。必要な機能とどのような活動が展開されるかを想定して、対応する空間を確保する計画になると考える。

- ・先ほどの SCU の関係について、その活動にも使われるスペースを確保させていただいている。ヘリコプターの運航調整については、災害対策本部が行い、発令されるのが前提になると思われるので、搬送されてきた患者さんを医療センターに運ぶか否かの判断を防災センターがすることを決めていく必要が生じる。

沼倉委員：・SCU と位置づけると、その機能を持っているという前提になってしまう。集まってくる患者さんを、仙台市内の病院、仙台医療センター、あるいは県外に運ぶなど、振り分けるのが広域防災拠点の役割になる。

小坂委員：・この売りは、街中の広い土地であることと仙台医療センターに隣接することと思う。
・仙台医療センターは、基幹災害拠点病院としての本来機能に加えて、消防と一緒に活動していこうとしている部分もみられるので、それらを強調していくこともあると思う。

牛尾委員：・各案で要する費用は、高い順でいえばどうなるか。

事務局：・パターンB、パターンA、パターンCの順になると思う。

委員長：・新しい医療センターの計画について情報はいただけるのか。

事務局：・環境アセスメントとそれを踏まえながら設計をしている。
・先ほどお話のあった医療センターとの動線の関係については、現時点ではお示しはできないので、各案について考慮すべき要素を委員方からいただき、医療センターの進み具合によっては課題として整理して、具体化する際に再度検討することになると思う。
・運用面などのソフト、道路の切り回しといったハードのいずれについても、それぞれのお立場からご提言を頂ければ、後に活かせると思っている。

委員長：・仙台医療センター側に広域防災拠点計画の情報を提供していくことはあるのか。

事務局：・その辺りは、庁内の連絡組織の中で共有している。
・ただ、整備年次が異なるので、仙台医療センターの整備にあわせて広域防災拠点側が受ける形になると思う。

小坂委員：・防災センターの役割として、愛知県では、普及・啓発、人材育成、研究センターなどが示されているが、ここではどんなことができるか。

事務局：・大きなイベントをするというより、コミュニティ単位の防災教育を受入れるようになると思われる。

小坂委員：・広域の拠点としては寂しいので、せめて小学生が防災のことを学び、実際に何かできることを考えた方がよい。
・委員としては、あとから計画を出す宮城県が、他の県より劣るものになるようでは困るので、機能の内容を充実したというところはあってほしい

い。

- 事務局：・委員長からご提案もあったので、研究しながら検討したい。
- 小坂委員：・南三陸の防災センターのようなものがあるなど、もう少し広いスペースを取るなり、内容を検討していただくのがよいと思う。
- 牛尾委員：・言い方としての問題はあるかもしれないが、明日から始まる知事選の目玉になるとも言えるのではないのか。
- ・それからみると内容が寂しいので、楽天が優勝したのだからドームにする費用の半分を負担していただくというところまで発想を広げて欲しい。
- 委員長：・さすが宮城県といわれる計画になると良いと思う。
- ・様々のご意見や課題を頂いたが、その他にあれば。
- 小坂委員：・岩手県ではソフト面で何を考えているかを紹介すると、海外から支援を受けるので税関とか人のクリアランスをどうするかということが考えられているようだ。
- ・県外、国外から支援を受ける、応援を送るというところまで視野を広げてもらおうと、希望のある計画になると思う。
- 委員長：・予定の時間が近づいてきましたが、本議題以外でも言い残した点がありましたらお願いしたい。
- 沼倉委員：・次回は最後の会議になるわけだが、宮城県がする事業の報告書に委員として名を連ねていくうえで、一定の評価の得られるものにしたいと思う。
- ・宮城県の防災対策を強化していく考え方をしっかりもった上で、地の利の良い宮城野原で、防災力の高いものを作っていくために、それなりの発想や組み立てをしていただきたいというのが一番の思い。
- ・宮城県全体に対する中心的な防災拠点として、県民の皆さんに親しまれる施設にしていただきたいという思いである。
- 委員長：・全体の総括に代えられるご意見をいただけたが、今の話に絡めて、事務局から今後の会議スケジュールについて検討ができるか。
- 事務局：・沼倉委員のご意見は大変重く、できるだけ応えるようにまとめるのが理想であるので、次回の会議を開く時期、回数も含めて検討したい。
- 委員長：・ぜひよろしくお願いしたい。